

## 〔選択科目：救命救急センター研修〕

### 1．研修内容

東京都立墨東病院 3次対応の救命救急センターでの研修。期間は1ヶ月を基本とするが、3ヶ月程度は選択可能。

救命救急センターは、東京消防庁の区分する第7方面（墨田区、江東区、江戸川区及び、葛飾区）をカバーする三次救急医療施設として、昭和60年11月に設置されました。

対象とする病態は、全ての重症救急患者であり、多発外傷、熱傷、中毒をはじめとする外傷性疾患から、脳血管障害、心筋梗塞、呼吸不全、腎不全などの内因性疾患にまで及びます。

特に心肺停止状態（CPA）の収容件数は全国有数となっています。

当院の救命救急センターの特徴は、他の科から独立しており、スタッフ15名（内科、外科、整形外科、脳神経外科の専門医）と、常時7ないし8名のレジデントが、救命救急センターの専任医として常駐しており、24時間365日診療に当たっています。

救命救急センターでの研修は、救命センター常勤医の指導監督の下で、3次外来での初期治療とセンター収容後の集中治療を常勤医とペアとなって受け持ち医として行います。当直帯はセンター常勤医3名、研修医3名の体制で行っています。

### 2．一般目標

すべての医師に必要な救命処置の基本的知識・技能・態度を修得するため座学ではなく実習を中心に研修する。

### 3．行動目標

- (1) 密室医療であるが故、なおさら患者さんに対する真摯な態度がとれる。
- (2) 救急におけるインフォームドコンセントの特殊性を理解する。

### 4．研修目標

心肺蘇生法（ICLS、ACLS、BLS）やJATEC対応の外傷初期診療や気管内挿管、胸腔ドレーン挿入、中心静脈カテーテル挿入、観血的動脈圧モニター留置などといった重症患者の急性期管理に必要なスキルを習得し、重症患者管理（人工呼吸器）について習熟する。